

入選

水について考える

須賀川市立第三中学校 三年 小林こばやし 舞音まお

私は、今まで、「水」について深く考えたことがありませんでした。ですが、これをきっかけに「水」について少し考えてみました。

私の家では、水を必要以上に使ってしまいます。手を洗っているとき、歯を磨いているとき、お風呂に入っているときなど、たくさん水を使ってしまいます。私が、特に水を多く使う場面はお風呂のときです。主に、冬の時期になると寒くてシャワーのお湯を出しっぱなしにしてしまいます。しかし、水道代もかかるため最近が必要なときだけ水を使うように心がけています。

私のお母さんと妹は、食器洗いに使う水や歯を磨くときの水のむだ使いが多いです。

このように、家族・友達・自分自身が普段当たり前のように使っているたくさんのお水が使えない国の

人々もいます。自分達のせいで水が足りていない、と思うと心が痛みます。私の友達の祖母はよく、「蛇口を開けば安全な水が出るのを当たり前だと思っっているだろうけど、それはすぐくぜいたくなことなんだから、もっと水を大切にしない。」と言っていました。友達の祖母の実家は、瀬戸内海の小さな島にあると言っていました。小さな島のため、川もなければダムもなく、昔は水道もなかったらしいので各家庭で井戸を掘って、井戸水を飲料用はもちろんすべての生活用水として使っていたそうです。水質検査も不十分で、特に雨の少ない夏には水に塩からさを感じ、湯沸かし器なども塩分でさびが出て傷むのが早かったとのことでした。生水を飲むことは考えられず、いつも一度沸かしてから、冷ました水を飲んでいたそうです。

それでも井戸水が十分にあるうちはましで、雨の少ない瀬戸内地方のため、真夏になると、井戸水が激減するので、苦労したとのことでした。とにかく、徹底的に節水に努めたと聞きました。

歯みがき中に水を出しっ放しにしない。米のとき汁は花だんや家庭菜園にまく。風呂の残り湯は洗たくに使う。エアコンの室外機から出る水もバケツにためておいて、打ち水に使う。そういうことを祖母は当たり前をやってきたと言っていました。

現在は、蛇口を開けば安全な水が出る生活にはなつたが、やはり水道のない生活を知っているだけに、水に感謝し大切に作る気持ちを常に持ち続けているそうです。

友達も祖母に注意される度に、水に対する意識が高まったらしく、水を大切にしようという気持ちが強くなってきた、と言っていました。私も、友達やその祖母を見習って、水の出しっ放しなどをしていないで、身近なところから節水に心がけるようにしている。

また、世界に目を向けてみると、発展途上国のア

フリカなどには、一日わずか五リットルの水で生活しなければならぬ地域もあります。現在、日本人は工業用水、農業用水、生活用水など全てを含めると一人あたり一日に約二千リットルもの水を使っているとは分かりました。

「水」は命の源であり、大切な宝物である。十分な水を得ることができなかった時代の人々のことや、今でも飲み水を手に入れるのにさえ苦勞しているような国々の人々のことを考えながら、「水」を大切に使うていこうと思います。